

国際医療福祉大学大学院
INTERNATIONAL UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE GRADUATE SCHOOL

大学院生募集 2019 GUIDEBOOK

言語聴覚分野

研究、臨床、教育の
第一線で活躍する人材を育てます。

医療福祉学研究科

- 修士課程 保健医療学専攻
- 博士課程 保健医療学専攻

学生募集要項
は次のいずれ
かの方法でご
請求ください。

Tel 03-5574-3903

E-mail daigakuin-nyushi@iuhw.ac.jp

HP <https://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/>



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

ごあいさつ



藤田 郁代

言語聴覚分野 分野責任者

東京大学医学博士。日本言語聴覚士協会前会長、第36回日本高次脳機能障害学会会長、第35回日本神経心理学会会長。日本高次脳機能障害学会名誉会員、日本神経心理学学会名誉会員、日本音声言語医学会顧問、「言語聴覚研究」編集委員長などを務める。専門は、言語聴覚障害学、神経心理学、高次脳機能障害学。

言語聴覚障害学(Speech-Language Pathology and Audiology)は20世紀初頭から台頭してきた比較的新しい学問分野であり、健全な言語・コミュニケーション過程を科学的に究明し、それを基盤として各種言語聴覚障害の病態と発生メカニズム、予防、評価診断、治療法等を探究し人々の健康と福祉に貢献することを目指します。現在、医療福祉の現場では病期別リハビリテーションや地域包括ケアが展開され、新しい形態による、より高度な言語聴覚療法の提供が求められています。また言語聴覚障害学および脳科学・認知科学など近接領域の学問の進歩は目覚ましく、臨床では新しい理論やテクノロジーを評価・診断・治療にいかにか活かすかが大きな課題となっています。

本分野では、このような要請に応えることができる“最先端の高度な技能を備えた専門職”、“新しい知識や技術を創出し未来を拓くことができる研究者”、“次世代の優れた人材を育てる教育者”の育成を目指します。

教員紹介

深浦 順一 教授: 日本言語聴覚士協会会長、日本音声言語医学会理事、日本高次脳機能障害学会評議員
城間 将江 教授: JICA青年海外協力隊技術委員、国際音声言語医学会教育委員

担当領域	担当教員	主な研究指導テーマ	キャンパス
言語聴覚 障害学領域	藤田 郁代 教授 (分野責任者)	(1) 失語症・高次脳機能障害の病態と臨床 (2) 認知症の病態とリハビリテーション (3) 健常高齢者の認知・コミュニケーション (4) 小児の認知・言語の発達神経心理学的研究	東京赤坂
	深浦 順一 教授	聴覚障害に関する研究	大川
	城間 将江 教授	(1) 人工内耳による音声の知覚 (2) 聴覚障害児(者)に関する臨床研究 (3) 語音聴取評価検査の開発	成田
	畦上 泰彦 教授	(1) 言語発達障害の基礎と臨床 (2) 特別支援教育と言語聴覚士の連携	大田原
	阿部 晶子 教授	(1) 失語症に関する基礎的・臨床的研究 (2) 視覚・視空間認知障害の基礎的・臨床的研究 (3) 言語音認知の脳内メカニズムに関する研究	大田原
	内田 信也 教授	(1) 失語症・高次脳機能障害の病態と臨床 (2) 脳機能画像による高次脳機能と障害メカニズム	成田
	原田 浩美 教授	(1) 聴覚障害児の言語獲得指導 (2) 聴覚障害児を持つ親への支援プログラム (3) 障害児を育てる親の自己効力感	成田
	安立 多恵子 教授	(1) 自閉スペクトラム症児のコミュニケーション機能 (2) コミュニケーション障害児への支援	大川
	平島 ユイ子 教授	難聴児の言語・コミュニケーション	大川
	小淵 千絵 准教授	聴覚障害児・者の聴取能や言語発達に関する研究	大田原
	菅野 倫子 准教授	失語症の基礎と臨床	成田
発声発語・ 嚥下障害学領域	深浦 順一 教授	発声発語障害の基礎と臨床	大川
	爲数 哲司 教授	(1) 発声発語障害の基礎と臨床 (2) 摂食・嚥下障害の基礎と臨床	大川
	倉智 雅子 教授	(1) 発声発語障害の基礎と臨床 (2) 摂食・嚥下障害の基礎と臨床	成田
	前新 直志 教授	(1) 発話流暢性の発達機序とその臨床応用 (2) 流暢性障害に関する基礎的・臨床的研究 (3) 構音・音韻の障害に関する基礎的・臨床的研究	大田原
	平田 文 講師	(1) 発声発語障害の基礎と臨床 (2) 摂食・嚥下障害の基礎と臨床	大田原

各教員の略歴、担当科目、研究業績、連絡先等は、大学院ホームページ(<https://www.uhw.ac.jp/daigakuin/>)をご参照ください。

言語聴覚分野の教育内容等に関するご相談 eメール: ifujita@uhw.ac.jp(分野責任者: 藤田 郁代)



修士課程修了、博士課程
1年在籍
中山 拓弥 さん
言語聴覚士
国際医療福祉大学熱海病院

在校生の声 臨床での疑問を解決したい・自分の研究でより多くの患者様を助けたい

大学院に入学したのは言語聴覚士になってから2年目のことでした。私が提供している訓練は本当に患者様の為になっているのか？患者様の能力を最大限に改善させるにはどのような訓練を選択すればよいのか？という疑問を感じながら臨床を行っていました。そんな時、先輩から勧められ大学院進学を決意しました。大学院では研究方法を学ぶことはもちろん、症例発表を行い臨床上の疑問を先生や学生同士でディスカッションすることで知識の向上やスキルアップが目指せます。さらに、研究技能が身につくと文献が論理的に読めるようになり、少しずつ患者様が呈している症状を科学的および客観的に考察することができるようになりました。業務と学業の両立は決して簡単なことではありませんが、それ以上に得られる知識や技術は多いと感じています。臨床での疑問を解決したい！自分の研究でより多くの患者様を助けたい！ということであれば、是非大学院の進学をお勧めします。共に学んでみませんか。

※大学院ホームページ 言語聴覚分野のページで、専門科目の標準履修年次表、修了要件等を掲載しています。

修士課程

リサーチマインドをもって高度な臨床に取り組む

“科学的論拠に基づいた臨床”を実践するには、最先端の知識技術を修得すると共に、“リサーチマインドをもって日々の臨床に取り組む”ことが重要です。修士課程ではこのような臨床が可能となる知識技術と研究技能を基礎から修得し、高度専門職業人、臨床の指導者、教育者を育成します。研究指導では科学研究の技能を基礎から身につけます。

◆言語聴覚障害学領域

小児から高齢者まで幅広い年齢層に生じる言語、聴覚、認知の障害について最先端の知識と臨床技法を修得すると同時に、演習や研究実践を通して研究技能を基礎から身につけます。主な対象は失語症、高次脳機能障害、認知症、ALS、パーキンソン病や右半球病変に伴う認知・コミュニケーション障害、聴覚障害(小児・成人)、言語発達障害(自閉症スペクトラム症候群、特異的言語発達障害、言語学習障害、読み書き障害)などの基礎と臨床です。

専門科目 『言語聴覚障害学講義 基礎・臨床』『言語聴覚障害学演習 基礎・展開』『言語聴覚障害学研究指導』



◆発声発語・嚥下障害学領域

小児から老人までの幅広い年齢層に生じるスピーチの障害(発声・共鳴・構音・流暢性などの障害)および摂食嚥下障害の臨床と研究の基礎について学びます。対象は摂食嚥下障害、発声障害、運動障害性構音障害、機能的構音障害、流暢性の障害(吃音)、舌摘出による構音障害、口唇・口蓋裂による発話障害、拡大代替コミュニケーションなどです。

専門科目 『発声発語・嚥下障害学講義 基礎・臨床』『発声発語・嚥下障害学演習 基礎・展開』『発声発語・嚥下障害学研究指導』



※修士課程は、専門学校等を卒業された満22歳以上の方も出願可能です(国家資格保持等の条件を満たしている必要があります)。

博士課程

国際的視野で学問と臨床の発展に貢献できる研究者、臨床指導者、教育者を目指す

博士課程では、言語聴覚障害の基礎と臨床に関する優れた研究を実践し、国際的視野に立って学問と臨床の発展に貢献できる研究者、教育者、臨床の指導者を育成します。研究においては近接する学問分野(医学、認知神経心理学、聴覚心理学、発達学、言語学、音声学・音響学、リハビリテーション科学など)との学際的研究ができる人材を育てます。博士論文研究では先端技術を利用した研究技法とデータ解析、結果の解釈と理論化、論文作成の技法を修得し、オリジナリティーのある本格的な研究を指導します。本分野は、言語障害学領域、聴覚障害学領域、発声発語・嚥下障害学領域に分かれています。

◆言語障害学領域

主な対象は失語症、高次脳機能障害、認知症、ALS、パーキンソン病や右半球病変に伴う認知・コミュニケーション障害、聴覚障害(小児・成人)、言語発達障害(自閉症スペクトラム症候群、特異的言語発達障害、言語学習障害、読み書き障害)などの基礎と臨床です。

専門科目 『言語障害学講義』『言語障害学演習』『言語障害学研究指導』

◆聴覚障害学領域

主な対象は、小児から高齢者までの聴覚障害とそれに伴うコミュニケーション障害の基礎と臨床です。

専門科目 『聴覚障害学講義』『聴覚障害学演習』『聴覚障害学研究指導』

◆発声発語・嚥下障害学領域

主な対象は摂食嚥下障害、発声障害、各種構音障害、流暢性の障害(吃音)の基礎と臨床です。

専門科目 『発声発語・嚥下障害学講義』『発声発語・嚥下障害学演習』『発声発語・嚥下障害学研究指導』



修士課程・博士課程修士
石川 幸伸 さん
言語聴覚士
国際医療福祉大学
福岡保健医療学部 助教

修士生の声 より一層、患者様に寄り添ったリハビリテーションが行えるようになりたい

大学院への進学は、自分の臨床に自信を持ちたかったというのが最大の理由です。日本では大学を卒業すれば言語聴覚士の国家試験受験資格を得られますが、アメリカでは大学院(修士)を卒業し、ようやく州の言語聴覚士試験を受けられる権利を得ます。それだけ、言語の領域というのは深い知識が必要だということです。

大学院進学前は「自分が提供しているリハビリは患者様にとって最適か?」「深く考えられているか?」など常に自問自答していました。大学院修了後もその気持ちは変わっていませんが、より学術的にポイントを整理して患者様のことを考えることができるようになったと感じています。臨床を何年か行えば「馴れ」が生じ、業務を「こなす」ことが出来るようになると思いますが、より一層、患者様に寄り添うリハビリをしたいと考えるのであれば、大学院進学を検討されてはいかがでしょうか。

国際医療福祉大学大学院

保健・医療・福祉専門職のキャリアアップを支援

「働きながら大学院で学びたい」社会人が学びやすい3つの特長

1 キャンパス

「働きながら大学院で学びたい」。こうした医療・福祉専門職の方々のニーズに応えるため、本大学院は、大田原(栃木県)、成田(千葉県)、赤坂(東京都)、小田原(神奈川県)、熱海(静岡県)、福岡・大川(福岡県)に7つのキャンパスを開設しています。
※分野により受講が限られるキャンパスがあります。

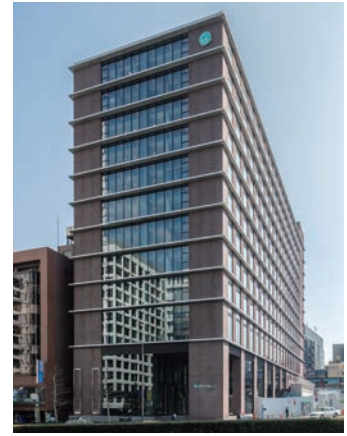


2 カリキュラム

多くの授業を平日の夕方以降と土曜日の昼間に行い、社会人が学びやすい環境を整備しています。
※専攻、分野により異なります。

3 同時双方向遠隔授業

キャンパスを同時双方向遠隔授業システムで結び、複数のキャンパスで授業をリアルタイムで受講できるようにしています。このシステムはテレビ会議方式を授業に取り入れたもので、テレビカメラによる映像や音声、書画カメラの映像、パソコンのファイル情報などが、各キャンパスでリアルタイムに共有できます。これにより、どのキャンパスでも授業が行われている教室と同じ状態で授業を受けることができ、質問やディスカッションなど同時双方向のコミュニケーションも可能です。



2018年4月、東京赤坂キャンパスを開設！
東京メトロ「赤坂見附駅」「永田町駅」から徒歩3分という都心の一等地に、新キャンパスが誕生しました。赤坂心理・医療福祉マネジメント学部を併設し、大学院・学部一体教育で高度な医療専門人材の育成を目指します。

大学院 医療福祉学研究科

修士課程

保健医療学専攻

- 看護学分野
- 特定行為看護師養成分野 (旧: ナースプラクティショナー養成分野)
- 助産学分野
- 理学療法学分野
- 作業療法学分野
- 言語聴覚分野
- 視機能療法学分野
- 福祉支援工学分野
- リハビリテーション学分野
- 放射線・情報科学分野
- 生殖補助医療胚培養分野
- 医療福祉教育・管理分野

- 臨床検査学分野
- 遺伝カウンセリング分野
- 災害医療分野
- 医療福祉経営専攻
- 医療経営管理分野
- 診療情報アナリスト養成分野
- 医療福祉国際協力学分野
- 先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
- 医療福祉学分野
- 医療福祉ジャーナリズム分野
- 医療通訳・国際医療マネジメント分野
- 臨床心理学専攻

博士課程

保健医療学専攻

- 看護学分野
- 助産学分野
- 理学療法学分野
- 作業療法学分野
- 言語聴覚分野
- 視機能療法学分野
- 福祉支援工学分野
- リハビリテーション学分野
- 放射線・情報科学分野
- 生殖補助医療胚培養分野
- 臨床検査学分野
- 医療福祉経営学分野
- 診療情報管理・分析学分野
- 医療福祉国際協力学分野
- 先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
- 医療福祉学分野
- 医療福祉ジャーナリズム分野
- 臨床心理学分野

大学院 薬学研究科

博士課程 (4年制)

医療・生命薬学専攻

大学院 薬科学研究科

修士課程 (2年制)

生命薬学専攻

- 生命薬学分野
- 医療薬学分野

大学院 医学研究科

博士課程

医学専攻

- 基礎医学研究分野
- 社会医学研究分野
- 臨床医学研究分野

修士課程

公衆衛生学専攻

- 国際医療学分野
- 疫学・社会医学分野
- 医療福祉管理学分野

大学院に関するお問い合わせ

東京赤坂キャンパス入試事務室 Tel : 03-5574-3903 〒107-8402 東京都港区赤坂4-1-26

※修士課程は、専門学校等を卒業された満22歳以上の方も出願可能です (国家資格保持等の条件を満たしている必要があります)。

学生募集要項は次のいずれかの方法でご請求ください

Tel 03-5574-3903 E-mail daigakuin-nyushi@iuhw.ac.jp HP <https://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/>

国際医療福祉大学

- 東京赤坂キャンパス 赤坂心理・医療福祉マネジメント学部 (心理学科、医療マネジメント学科)
- 大田原キャンパス 薬学部 (薬学科・6年制)
医療福祉学部 (医療福祉・マネジメント学科)
保健医療学部 (看護学科、理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、視機能療法学科、放射線・情報科学科)
- 成田キャンパス 医学部 (医学科)
成田看護学部 (看護学科)
成田保健医療学部 (理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、医学検査学科)
- 小田原キャンパス 小田原保健医療学部 (看護学科、理学療法学科、作業療法学科)
- 福岡キャンパス 福岡看護学部 (看護学科)
- 大川キャンパス 福岡保健医療学部 (理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、医学検査学科)

国際医療福祉大学 附属病院

- 国際医療福祉大学病院 (栃木県)
- 国際医療福祉大学塩谷病院 (栃木県)
- 国際医療福祉大学三田病院 (東京都)
- 国際医療福祉大学熱海病院 (静岡県)
- 国際医療福祉大学市川病院 (千葉県)
- 国際医療福祉大学成田病院 (千葉県)*

* 2020年開設予定